



モデ まず、ここで重要なポイントを申し上げたいと思います。

津市の振興策について特に着目すべき点は、自治体の経済担当責任者の立場から申し上げますと、ジュネーブと津市との間には経済振興政策においていくつかの類似点が見受けられることだと思います。スイス国内、とりわけジュネーブにおける大多数の雇用は中小企業によって創出されており、このようなわれわれの協力関係が、津市とジュネーブが互いに両輪となって産業振興推進に資することになるのです。ジュネーブ州政府は経済的パートナーとの『アクセス性(近寄りやすさ)』が良く、緊密かつ良好な関係を保ち続けるよう努めています。『近さ』は本当に重要な要素ですし、私の役割はビジネス界からの声を聴き、彼らをサポートすることです。

今日、私がここにいるのはそのためです。経済振興機関を通じ、ジュネーブ州は戦略的分野において大きな成功を収めたのですが、とりわけ注目すべきはアメリカ、アジア企業の新たな進出によって、多数の雇用がもたらされていることです。最近の例としては、日本の大手製薬メーカーを誘致できたことはうれしく

思っています。他の日本企業に関する案件についても現在進行中です。

グローバル企業にとって、ジュネーブを新たな進出地として選ぶ動機となる魅力的な要素のうちのいくつかは、ジュネーブの最高水準のインフラ整備、とりわけジュネーブ国際空港があると考えています。ここから120の空港へアクセス可能ですし、年間1,500万人が利用するなど、無類の国際環境にあるのです。それだけではありません。ジュネーブには国際連合をはじめ、CERN(欧州原子核共同研究機構)、WIPO(世界知的所有権機関)、WTO(世界貿易機関)など、およそ30の国際機関の本部が置かれており、そのことがジュネーブを国際統制の中心地たらしめています。

ビジネスにおいて魅力的で効果的な環境であることは安定的かつ柔軟な労働規定が示すとおりで、企業にとって好条件がそろっています。

市長 両国の企業間の連携について熱意をお持ちなのですね。われわれも民間企業に対しての良いサポートやビジネスマッチング支援、さらには両国、両地域間でのコラボレーション事業の可能性など、できることはあるでしょう。2都市間が協働する

